

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **75**
December
2008



第13回風花祭 大田原キャンパス

研修レポート 海外研修／韓国研修旅行
福島夏季英語研修



第13回 風花祭 2008 October



10月18日(土)・19日(日)、大田原キャンパスで大学祭『風花祭』が行われた。2日とも晴天に恵まれ、ストリートや野外ステージは晴れやかな表情の学生や来場者でいっぱいになった。今年のテーマは『笑顔のもとに～no more cry～』。ひとつの笑顔がみんなを幸せにする、そんな願いがこめられた2日間でした。



屋外/模擬店 ストリート



工夫を凝らした看板やユニフォームでの呼び込みなど模擬店ストリートはおいしそうな匂いと熱気で終日盛り上がった。



屋内展示

室内はさまざまなサークルの発表の場。真剣な表情と終わった後のほっとした表情が印象的。



オープンキャンパス

オープンキャンパスも同時開催。各学科の体験コーナーでは日頃の学習内容などを楽しくガイダンス。



このIUHWの紙面を飾る写真部のブース。IUHWの取材で撮った写真のコーナーも作られており、日頃の活動をアピール。

図書館イメージキャラクター決定!!

図書館で募集していたイメージキャラクターは、図書委員会での一次審査を通過した7点を図書館内に掲示、投票を行い、医療福祉学科3年川田泉さんの作品「ライプクんとラリーちゃん」が選ばれました。新井田館長より賞状と副賞の図書カード5,000円分が贈呈されました。今後図書館HPなどに登場します。



野外ステージ

朝から歌や踊りが続く野外ステージ。観客もいっしょに体を動かしたり、時には思わず聴き込んでしまったり。何と言っても我らが仲間のステージをみんなで盛り上げる一体感が魅力です。



風花祭の写真は写真部の協力をいただきました



CONTENTS

2 第13回風花祭 大田原キャンパス

図書館イメージキャラクター決定!!



4 研修レポート

海外研修 アメリカ/オーストラリア/ベトナム 韓国研修旅行 福島夏季英語研修

8 小田原キャンパスレポート 第9回

軟式野球部 第29回東日本大学軟式野球選手権大会出場 潮風祭『Challenge～3年目の挑戦～』

9 大川キャンパスレポート 第14回

作業療法学科1期生 大学生生活もいよいよ“最終章”初の海外研修を発表 月華祭『一致団結～ハートをつなごう。はじめの一歩～』

10 Topics & Columns

北京パラリンピック研修を振り返って/高木理事長、全国私立リハビリテーション学校協議会会長に就任/中国リハビリテーション研究センター開設20周年記念 第3回北京リハビリテーション・フォーラム/同窓会設立総会/第10回アジア理学療法学会/視能訓練士養成施設教員研修会/平成20年度看護学科公開学習会/医療福祉学部フォーラム/サービス管理者研修/2009年度入学試験のお知らせ/言語聴覚学科同窓会(おおるり会)10周年記念式典/ベトナム草の根プロジェクトに参加して/OPST部主催講演会レポート/Mary Evert元米国作業療法士協会会長の特別講義/大学院福岡SC「自立支援介護を学ぶ研修会」/福岡リハビリテーション学部「臨床教育に関するフォーラム」

11 私の主張 第10回 視能療法学科講師 三柴恵美子 『視能訓練士を取り巻く環境』

13 サークル紹介第5回 女子バレーボール部

14 研究最前線 第7回 保健医療学部言語聴覚学科教授 藤田郁代 『文の理解は脳でどのように行われるか』

15 私のおすすめ 第10回 小田原保健医療学部看護学科長・在宅地域ケア研究センター長 島内節 『脳は美をいかに感じるか ピカソやモネが見た世界』

16 施設インフォメーション

国際医療福祉大学病院/三田病院/熱海病院/山王病院/化研病院/シーサイドもち

19 福岡看護学部 看護学科が誕生します!

20 医療福祉チャンネル774/ IUHW Hot News「新宿区長 けやき園来訪」

このように内容豊かな海外研修を安全に満喫できたのは、準備から研修中のサポートまで丁寧に関わって下さったミレニア社の皆様と、国際部をはじめとする大学関係者の皆様、海外保健福祉事情の授業をご担当の先生方のご尽力のお陰と、深く感謝している。

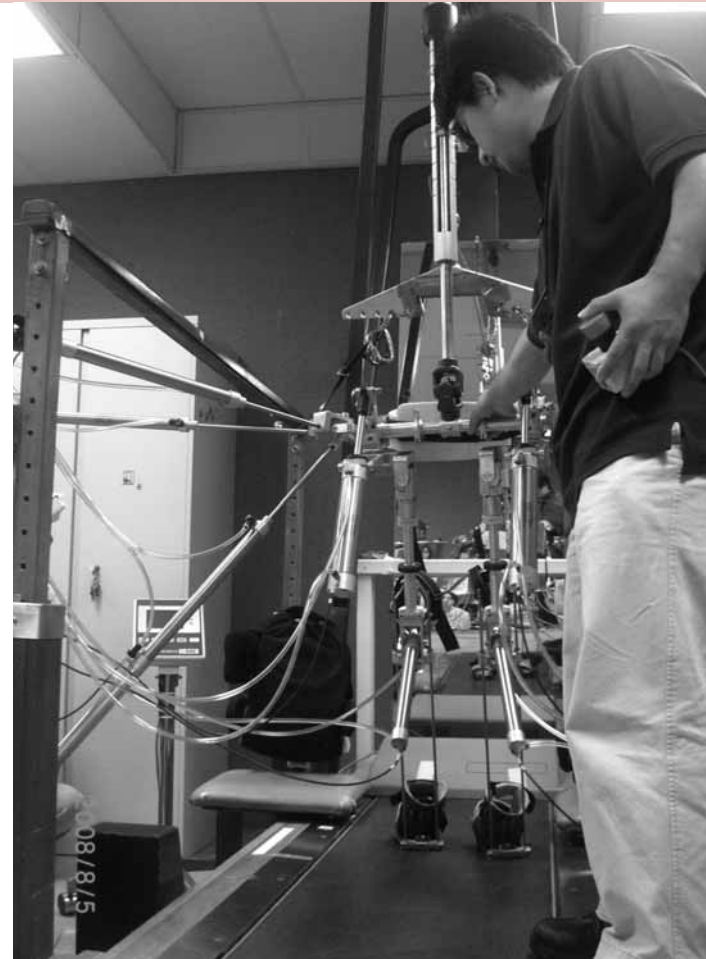


U.C.L.A病院のICU。

参加者は大田原、小田原、大川の3キャンパスからの集合体、私は本学では新任という状況の下、出発時の成田空港から既に異文化コミュニケーションは始まっていた。研修の詳細については報告書に譲るが、今年6月オープンしたUCLA大学病院では、初の海外研修受け入れのことで大変な歓迎を受けたことを記しておきたい。

今回の研修ではディスカッションが成立したのだ。違和感を感じた内容をうやむやにせず、言語的に表現し合うことは容易なことではない。時に緊張が高まり、苦しい場面もあったが、徹底的に話し合った後は笑顔で肩を叩き合っていた。こういった能力や体験は、将来彼女達が医療福祉の専門職として働く時、必ず生かされるであろうことを思うと、非常に頼もしい。

小田原保健医療学部 看護学科 森 真喜子



研修 & 実習

Report of training and practice 2008

- アメリカ
- オーストラリア
- ベトナム
- 韓国
- 英語研修

アメリカ研修

U.S.A
アメリカ

理学療法学科2年 小澤 春香
アメリカ研修に行くと、日本との違いを感じた。例えば日本では医療負担が少なく、入院は長期療養型で看護師一人に對する患者の比率が大きいため、看護師の負担が大きい。一方アメリカでは保険加入が義務づけられていないため、医療負担が大きい。入院は短期集中型で看護師・患者1:1~1:3と看護師の負担も少なく十分なケアができる。今まで当たり前だと思っていた日本医療の長所と短所を学んだ。病院見学した時は、医療従事者の方々が笑顔であいさつや説明をしてくれ、みんなそれぞれ自分の仕事に誇りを持っていて、とても生き生きと働いて

初めて行く外国、初めてするホームステイ、初めて会う他キャンパスの人たち。空港に着くまで、これから経験するであろういろいろなことを想像しては、期待と不安の入り混じった気持ちになった。空港で他キャンパスの学生達と初めて顔を合わせた。初めは同じキャンパス同士でかたまっていたが、すぐに打ち明け、仲良くなった。

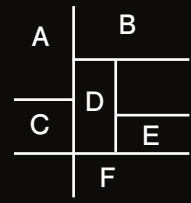
オーストラリアの学校に通い、英語を学んだ。クラスには様々な国の人がいたが、英語を話すことでお互いを理解し、友達になることができた。ホームステイ先ではそれぞれが毎日慣れない英語で苦勞しながらも、充実した時間を過ごすこ

Australia オーストラリア

「オーストラリアで得たもの」

小田原保健医療学部 理学療法学科 2年 林 翔太

ボランティアで施設の利用者さんとの会話は、英語での会話が少ししかできなかった。改めてコミュニケーションの大切さを実感し、自由行動ではバスや地下鉄の利用や買い物などで、地元の人との交流やアメリカ文化に触れることができてとてもいい経験になった。これからこの研修での様々な経験を生かせるように、自分の目標を目指して頑張っていきたい。



- A: アメリカ研修、ロボット研究の現場
- B: オーストラリアにて
- C: 本校看護学科卒業生のヒエンさん姉妹と
- D: メコン川にてジャングルクルーズ
- E: カリフォルニアのディズニールンド。
- F: オーストラリアの海岸



「ホームステイという不思議」
保健医療学部看護学科 松澤和正
今回のオーストラリア研修に参加した

とができた。ホームステイ最終日、ほとんどの学生が涙を流していた。医療、福祉施設では日本のそれとは異なる部分を実際に見て学ぶことができ、とても興味深かった。

この2週間、たくさんの苦勞をした。それでもみんな笑顔でいることが多かったのは、充実していたからこそだと思う。多くの人に助けられ、人と人とのつながりの大切さを実感した。この研修で得たものはとても大きく、一生忘れられないだろう。



国語で行いましたが、スライドは英語のため、本学の学生にはかなり大変だったようです。高麗大は全学部においてTOEICで七五〇点以上という卒業条件があるようで、その後の交流会でも英語力の差に圧倒され、英語不足が悔やまれた経験となったようです。

次は延世大学セブランス病院です。延世大学は日本の慶応大学のような大学で、総学生数は五万人以上。このキャンパスもまた巨大です。キャンパスの最大長は



約四キロだそうです。セブランス病院は大学病院の本院でベッド数は二千床以上もあります。二階建の本館とその周りに複数の専門疾患棟があり、広大なので病院敷地内には小さなシャトルバスが複数台で巡回し、いたるところでコンパニオンが案内をしていました。画像診断部では、朝七時から二三時まで完全二交代の連続稼働というスケジュールで、本邦では実例がないほど多くの検査件数でした。しかし、大変システムティックに構成されており、技師の方々は焦ることなく業務をこなし、学生には優しい英語を使って親切に指導してくれました。偶々実習に来ていた他学の放射線技師を目指す学生と交流があり、互いの学生生活や国家試験のこと、就職のことなどについて、日本語の通訳が出来る技師さんを通じて大変貴重な交流が持てました。

韓国の学生の年齢は三年生で二五歳くらいです。それは徴兵制があるためで、毎年面倒をみてくれる高麗大のユン君も十月から入隊ということで、韓国の厳しい面を目の当たりにしました。

食事では、私が韓国料理の中で最もお勧めする「サンパブ」という料理を皆で食べに行ったり、買い物したり、充実した研修だったと思えます。

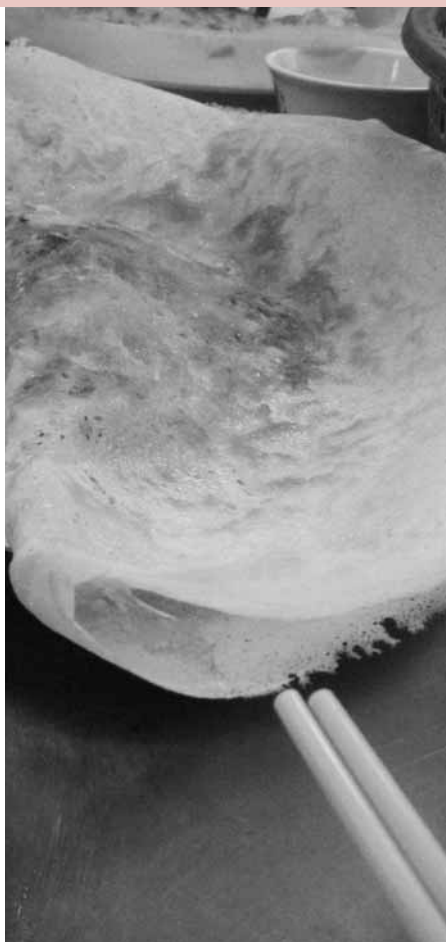
English Summer Camp Tomoko Akiba (OT)

I had a good time at British Hills this summer. I found some classes very enjoyable. For example, I enjoyed making scones with chocolate chips, coconuts and nuts in the cooking class. I succeeded in my first experience of baking scones. I also enjoyed playing snooker in class. I had never played it before, but I won the game. I want to play it again. In my free time, I went to the pub with my friends and teachers. We played some games, drank non-alcoholic cocktails and talked with staff in English. I couldn't understand everything, but I could talk with them. I was happy when they understood my English. Finally, I was able to make friends from other departments at IUHW. We enjoyed shopping, playing sports and talking to each other very much. To conclude, I had many precious and enjoyable experiences at British Hills this summer.



英語研修 English Camp

英語の授業の一環として、British Hills (福島県天栄村)にて、九月初旬、三泊四日で英語の授業を受け、英語で生活を送る夏季研修が開催されました。参加者は看護学科四名、理学療法学科一名、作業療法学科四名、視機能療法学科一五名、薬学科二名の計二六名でした。今年も参加者全員が元気な一年生の女子で、最初から最後



ベトナム料理「バインセオ」

学生諸君は計5名で、専門分野も異なり、キャンパスも分散していた。始めからなんらかの「異文化」接触に近いものを互いに感じたはずだが杞憂であった。まともにはよく、皆快活で、なにより毎日を楽しんで過ごしていた。

今年度のスケジュールは、昨年度とは異なり、ホームステイがほぼ全日程に組み入れられた(昨年はこの半分)。到着した日の翌日からホームステイが始まり、そこから英会話学校に通いつつ様々な医療福祉施設の見学も行い、それがほぼ最終日まで続く。英語もおぼつかないなにか、いきなりで、しかも長期となつて大丈夫だろうかと思案していたが、これも取越し苦労だった。毎日、ホームステイ先で作ってもらった特大の昼食をほおぼりながら元気に笑っている(ほんとうは疲れもあつただろうが)。

ホームステイというのは、いわば(言葉は悪いが)居候である。それだけで肩身が狭い。その上に言葉も不自由な外国での居候である。それを楽しんでしまうと、これは「若さ」にしかできないことだと、ただ私はうらやましくまた頼もしく感じただしだいである。

学生も引率の私も初めてのベトナムであったが、滞在中はチョウライ病院諸先生の好意により快適に過ごすことができた。学生達は、当地のスタッフから英語で説明を受け、当初戸惑っていたが次第に単語レベルから向上し、2、3日すると努力してコミュニケーションを試みられるようになっていった。若者の能力の高さを感じることができた。また、学生達は、慣れていくに従って積極的に集中治療室でシーツ交換、理学療法の手伝いを申し出て、行い、不明な点は質問をするようになっていった。海外の病院で、集中治療室、リハビリテーションの現場、当学が協力しているJICAの草の根事業などを体験できたことは、勉強の面でも良い動悸付けになり、また、専門職になる意欲が高められた様子であった。日

Vietnam ベトナム

「海外保健福祉事情」

保健医療学部理学療法学科教員

秋山純和

本と異なる状況の医療機関の集中治療室やリハビリテーション室で実際に対象者の治療に参加できたことは非常に貴重な体験であると感じた。引率教員自身もたくさんの疾病、障害を持つておられる方に接し、自身の勉強になった。

二週間を一言で表すと:
「学び・人の温かさ・絆」

保健医療学部看護学科二年

石崎未沙

今年から本校・小田原・大川の合同研修になり、最初はとても不安だった。しかし共に過ごし、学び、協力し合っていくにつれて、初日のぎこちなさが嘘のように仲良くなっていった。

ベトナムでは驚きの連続で、街中は車やバイクのクラクションが鳴り響き、交通規則はあまり守られてない様子で、これも道徳や教育が不十分な点で未だに発展途上国なのかなと感じた。また病院では、ストレッチャーで寝ている患者や一つの器具に対し、複数の患者が使用している様子が見られた。

研修の他に、クチトンネルやメコン川クルーズなどにも行ったり、ベトナム料理やフルーツを食べたりして様々な文化を感じる事ができた。また最終日の「JAPANDAY」では、皆で頑張った練習したダンスの発表や手作りの日本料理にとっても喜んでくれた。チョウライ病院をはじめとする、温かい笑顔で私達を迎えてくださった関係者の皆様や引率の秋山先生と14人の仲間達へ: Cam on

Korea 韓国

最後にこの研修で得たものを自分の今後の生活に生かしたいと思う。

放射線・情報科学科 卒業研究「韓国研修旅行」

今年も放射線・情報科学科の山本研究室恒例行事である「韓国研修旅行」を九月七日から十日の日程で行いました。九人の学生と目指す訪問先は高麗大学と延世大学セブランス病院です。

高麗大学は日本の早稲田大学に医学部があるようなイメージです。総学生数は四万人近くもいます。キャンパスは四つに分かれていて、今回は本校(主に文系と教養系)の見学をしました。本校の印象は、大きい・綺麗・ハイテクと驚くばかりです。建物は全てお城のような建物で統一されています。保健医療系は別のキャンパスで、シャトルバスで一五分くらいの距離です。今年はいの学生の研究発表会を行いました。発表自体は母



で統一されています。保健医療系は別のキャンパスで、シャトルバスで一五分くらいの距離です。今年はいの学生の研究発表会を行いました。発表自体は母

軟式野球部快挙／第三回潮風祭

小田原保健医療学部軟式野球部 第二九回東日本大学軟式野球選手権 大会出場！



部に昇格したばかりでの快挙となった。東日本軟式野球選手権大会は一月一日(月)から十五日(金)、千葉県青葉の森スポーツプラザ野球場で行われる。今年度新たに新入部員を迎えてようやく二十五名となった小さな軟式野球部の見せる大きな活躍に今後も目が離せない。

第三回潮風祭

「Challenge 3年目の挑戦」

一〇月十八日(土)・十九日(日)、第三回潮風祭が開催された。今年のテーマは、「Challenge 3年目の挑戦」。テーマには「昨までの二年間の良さを残しつつ、新しいことへ挑戦しよう」という学生たちの熱い思いが込められている。「学生だけでなく、来場者にも楽しんでもらえるイベントを」と実行委員を中心に学生たちは夏休みを返上して準備を進めてきた。

八月二十七日(日)から始まった、全日本大学軟式野球連盟南関東一部秋季リーグの最終戦が、一〇月二日(日)に神奈川県湘南ひらつかキャンパス野球場で行われた。
当日は冷たい風が吹く中、熱い試合が繰り広げられた。惜しくも、本学部は〇対三で東海大学に敗れたものの、秋季リーグ戦七勝三敗という好成績を収め見事リーグ戦二位と健闘し、東日本大学軟式野球選手権大会出場の栄光をつかんだ。
小田原保健医療学部軟式野球部は結成三年目で昨年度連盟に新加盟し、今年一

迎えた初日、多くの来場者の足をとめることとなった、エントランス大階段の装飾。その階段を昇り、二階ラウンジに行くと、ハロウィンを思わせるかわいらしいお菓子の装飾が来場者を出迎えた。学祭では定番の屋台のほか、イベントとして潮風祭恒例となった「大抽選会」や「サークルNo.1決定戦」をはじめ、軽音部やアコースティックサークルのライブ演奏が行われた。また、教育後援会特別講演として「小田原の歴史と文化」をテーマに小田原市教育委員会の塚田順正氏による講演も行われた。

作業療法学科 一期生

大学生活も

いよいよ「最終章」

〇T学科 丹羽 敦 講師



開学から、四度目の冬を目前に、当学部の完成年次も残り四ヶ月となった。そんな中、作業療法学科一期生達は、来年三月一三日の卒業に向け、いよいよ大学生活の「最終章」を迎える。

入学以来、先輩のいない状況で、試行錯誤しながらも着実に成長し、伝統を創り上げてきた。そして、その伝統発信の時に近づいている。しかし、この「最終章」にも、「国家試験」という大きな関門が待ち受ける。冬の寒さと共に、この難関を乗り越え、歓喜の春を迎えてもらいたい。そんな作業療法学科一期生達の現状報告と同時に、エールを送る。

作業療法学科 長期臨床実習終了！

平成二〇年五月より始まった作業療法教育の最終段階ともいえる長期臨床実習が、一月七日で終了する。三期に設定した各期八週の実習のうち、一期生四四名の各学生が二週間の実習を終えたこととなった。学生達は、各期を終了し大学にもどってくるごとに、あの三年前のあどけなさの残る表情から徐々に凛々しさを増し、医療福祉に携わる社会人としての自覚さえ感じられるようになった。臨床実習指導者をはじめ、多くのスタッフの中で、患者さんに対して作業療法評価および治療を実践してい

くことは、緊張の連続からのスタートであったに違いない。臨床実習指導者の実践から基本的技能を習得していく過程において、学内の座学・演習での知識・技術だけでは太刀打ちできず幾度となく挫折感を体験してきたと思う。作業療法の現場では、心身に障害をもつ人のより良い暮らしを目標に、「心」と「体」をどう支援していくかが求められ、そこには、応用的な専門知識・技術、そして態度面を含んだコミュニケーション・技能等による問題解決能力を要求される。その中で学生達は、苦心しながらも、あらゆる局面において自己決定し、課題の克服に努めてきた。そして多くの成功体験もあつたはずであり、そこから得る達成感、充実感が学生達の自信に繋がりがたくましく成長させてくれたのだと思う。

国家試験の合格は、新たな出発点に立つことである！

学生達は、長期臨床実習を終えると、安堵する間もなく、次の大きな関門「国家試験」に向かっての勉強に突入する。就職活動のなか、落ち着かない状況ではあるが、心機一転、来年三月一日の国家試験へもう一度奮起を期待したい。
今、卒業という一つの目的地点に向かって頑張っている学生達に追い討ちをか

続く二日目には、昨年度に引き続き、「海外保健福祉事情発表会」、「パレオ部招待試合」が行われた。また今年度は初の試みとなる「お笑いライブ」も開催され、開場前から来場者が長蛇の列を作るほどの大盛況ぶりであった。「海外保健福祉事情発表会」では、学生が夏期休暇を利用して、アメリカ、オーストラリア、ベトナムの各国で、医療・福祉機関において、現地スタッフの指導の下、研修を行った際の発表が行われた。学生たちの発表からは、真剣に研修に取り組む姿が感じられた。発表の最後には、「この一五日間の経験は一生忘れない」と感想が述べられた。

学生たちにとって、医療・福祉機関での貴重な体験もさることながら、研修を通して、接したホームステイファミリーや現地スタッフとの交流が何事にも代えがたい経験となったようだ。
また、両日を通して行われた、福祉施設の出店では、近隣福祉施設の団体と本学部の学生と一緒に焼き菓子等の販売を行った。昨年、実習でお世話になった



けるつもりはないが、国家試験の合格は「新たな出発点」だと考えている。作業療法士を目指してきた学生達にとって、真の作業療法士への新たな出発点なのである。一つの山を越えたら、そこから

「初の海外研修を発表」 事務部 高山奈弥

福岡リハビリテーション学部は、一〇月九日、「平成二〇年度海外研修発表会」を実施しました。本学部としては、初めての海外研修となり、ベトナム、オーストラリア、アメリカ、中国、韓国の五ヶ国での研修に、合計十五名が参加しました。また、韓国での研修は、本学部単独の企画となり、本校としても同国での研修の実施は初めてとなります。
発表会には、一、二年生を中心とした約四〇〇名の学生が参加。それぞれの研修に参加した代表者が、病院や福祉施設での見学内容、ボランティア活動を報告、研修で得られた成果などをプレゼンテーションしました。
海外の医療現場に直接ふれることができた経験や、各国のリハビリテーション事情、現地の学生との交流など、興味深い内容が発表され、学生達は熱心に聞き入っていました。

オリピックイヤーを記念して、パラリンピックの開会式にも参加した中国での研修では、作業療法学科三年の岩瀬佐保里さんが、「日本と中国のリハビリテーションセンターの違いや、パラリンピックの選手のスポーツに賭ける情熱を目の当たりにし、自分のモチベーションが高まりました。この研修で、知識や人脈、感動、これからの自分の原動力になるものを得ることができました」と感想を述べました。

「月華祭」

大学祭実行委員長 作業療法学科三年 安武哲宏
一〇月二五日、二六日の二日間にわたり開催された福岡リハビリテーション学部大学祭「月華祭」が無事終了しました。今年のテーマは「一致団結！ハートをつなごう。はじめの



大学祭実行委員



灯明一光の彩

方の絵画個展を開いたり、近隣福祉団体との交流を深めた。

さらに、国際医療福祉大学熱海病院ブースでは、保健指導、血糖値測定や、メタボチェック、血液サラサラ検査を行った。中でも血液サラサラ検査は多くの来場者の関心を集め、予約待ちが出るほどの大盛況となった。保健指導では看護学科の学生が測定したデータを基に、熱海病院保健師による保健指導が行われ、看護学科学生との良い交流の機会となったようだ。その他にも各学科の体験コーナーや入試対策講座などに多くの方々が増し終日賑わいを見せていた。

一般公開後の後夜祭では小田原保健医療学部の伝統となりつつある、学科別発表が行われた。学科別発表では、教員を審査員に招き、各科学年がそれぞれ工夫した合唱を披露した。今年は、演出にも工夫が見られ、合唱と共に、寸劇が練り広げられたり、潮風祭準備や合唱の練習を収めたスライドが流されたりと、各学科の個性溢れる発表に笑いと、涙ありの感動的な発表会となった。後夜祭の最後には、第三回潮風祭実行委員長を務めた、作業療法学科二年波崎祥代さんが、在学生の前に、「今回の大学祭が成功したのも、協力してくれたみんなのおかげです。」と感謝の気持ちを述べ、今年の大学祭は幕を閉じた。

今回の潮風祭を通して、普段の学生生活とは違った学生たちの一面を見ることができた。学生たちの溢れる活力と、はつらつとした笑顔に、完成年度を迎える来年への更なる成長が今から楽しみである。(学務課 磯崎真弓)

下を見下ろすのではなく、さらにそびえる高い山を目指して欲しい。
作業療法学科一期生の諸君、来春、新たな出発点に皆で立つのだ！

一歩)。大川市に開設されて四年目のリハビリの学生として、さらに地元の方々との交流を深めるため、リハビリ部の学生一同が、大川市民の皆様と一丸となり新たな伝統を築き上げたいという思いがこのテーマには込められています。

月華祭では、「バンド演奏」「ミス?コンテスト」や「COOLミロのスペシャルライブ」「えほんのこみち」などたくさんイベントが行なわれました。「のど自慢大会」では、私たちが、同世代をはじめ、地域の方々にも多数ご参加いただきました。

また、さらさらステージでは、大川市にある障がい児を持つ親の会(めぐみ会)の子どもたちと学生による合唱も行いました。どのイベントも、多くの方々に来場していただき、昨年以上の盛り上がりを見せました。
新企画として、紙コップにろうそくを立てる。灯明。で大川市と大学の結びつきを表現しました。全学生、大川市民の皆様のご協力のもと、目標四〇〇個をはるかに上回る灯明を作ることができました。実習やレポートに追われながらも皆を統括してくれた三年生をはじめ、最後まで笑顔で一生懸命頑張ってくれた一、二年生、そして大学祭実行委員に大きな拍手を送りたいと思います。これから先も、学生と地域が一体となった大学祭が開催されることを願っています。

北京パラリンピック研修を振り返って

今回の研修は、中国で初めて開催される北京パラリンピック（オリンピックの後に開催）に本学の学生の皆さんを連れて行き、開会式や競技を観戦してもらうことで「共に生きる社会の実現」を肌で感じてもらうとともに、本学の三つの基本理念の一つである「国際性を旨とした大学」の一員として、いかなる国の人々とも伸び伸びと協働できる国際人に一歩でも近づけるようになっていただきたいという目的で実施いたしました。

また、中国リハビリテーション研究センターで研修を行ったほか、本パラリンピック運営委員会の中心人物との交流会に参加する機会もあり、学生の皆さんにとつて少しでも心に残る経験をしていただけたなら事務局としてこんなに嬉しいことはありません。

なお、事務局として今回の研修で最も重要なことは、研修に参加された学生の皆さんが元気に研修に参加し、全員が無事に帰国するという一点でした。六日間という限られた期間に、様々な研修を盛り込んだ



たならば事務局として今回の研修で最も重要なことは、研修に参加された学生の皆さんが元気に研修に参加し、全員が無事に帰国するという一点でした。六日間という限られた期間に、様々な研修を盛り込んだ

ため、大変ハードな日程になってしまいました。怪我人、病人が出ずに全員が無事に帰国できて初めて自分の仕事が終わったと実感できました。

是非またこのような研修を企画して、多くの学生の方々に海外で貴重な経験をさせていただく機会を少しでも多く与えていければと思います。

（事務局 服部是史）

高木理事長 全国私立リハビリテーション 学校協会会長に就任

高木理事長が六月一九日の全国私立リハビリテーション学校連絡協議会総会において、会長に推薦されご就任されました。また、当日、名称を全国私立リハビリテーション学校協会に変更しております。

本会は、昭和六二年に私立のPT、OT、ST養成校の教員の向上を目指して創設され、今年で創立二二周年を迎えます。毎年、ワークショップと教員研修会・教育研究大会を開催し、教育現場における方法論、本題解決能力等、教員の質の向上を図るためのプログラムを提供しております。本年は七月末に東京ガーデンパレスにおいてワークショップが、八月二〇日から松山全日空ホテルにおいて教員研修会・教育研究大会が開催されました。両会ともに高木会長に出席いただき、開会式において挨拶をいただきました。

来年の教員研修会・教育研究大会は国際医療福祉大学本校にて開催されます。丸山医療福祉学部長を中心に毎月準備委員会を開き、着々と準備を進めております。

ができた貴重な大会となりました。（理学療法学科 倉本A亜美）

「視能訓練士養成施設教員研修会」開催

八月二八・二九日の二日間、日本視能訓練士養成施設連絡協議会「第一回教員研修会」が大学院東京サテライトキャンパスで開催された。本協議会は、「視能訓練士養成に關して連絡、協議し、教育の向上、発展を期する事を目的」として設立され、昨年度から新井田学部長が会長となり、視能療法学科で事務局を務めている。

今回、第一回の記念として、日本の視能訓練士第一号である川村緑先生に貴重な講演をいただくことができた。その後、各養成校教員が知識と知恵を持ち寄って専門課程の指導教案を作成するグループワークに取り組んだ。若い教員も多く、最初は戸惑いも見られたが、共通の悩みの存在に安心し、次第に打ち解ける中からディスカッションも活発になり、発表会ではベテランの指導のコツなどが学べ、大変有意義な会となった。夜には同会場で懇親会もおこなわれ、各校のお国自慢など、和やかな雰囲気での終了。参加者の感想も概ね好評であり、今後ますますの指導スキル・マインドの向上のために研修を続けていく予定である。



残暑の中、八月三〇日～三十一日の二日間、「第十回アジア理学療法学会」が開催された。会場となった千葉県幕張メッセ国際会議場は、日本をはじめ、アジア各地からの参加者三千人以上で埋め尽くされた。各国の理学療法を取り巻く様々な状況や課題についての情報交換を通して、共感し合い意見を交わすことにより、将来にわたる理学療法士として互いに協力していく気持ちを再確認することができた。



大会長は本学保健学部長の丸山仁司先生が務められました。大会長による初日の基調講演をはじめとして、記念公演では、世界保健機関（WHO）西太平洋事務局長の尾身茂先生をお招きし、貴重なお話を聞くことができました。さらに、シンポジウムでは、韓国、タイ、台湾、フィリピン、マレーシア、日本の理学療法協会の代表より、現在の各国の理学療法に關わる問題を中心に見聞交換が活発に行われました。その他、各国の学生による学生フォーラムや、CBRなど実際の理学療法士による各国での活動を中心に話し合いが行われたシンポジウム、さらには、約七百もの口頭及びポスター発表によって、参加した人たちが心を通い合わせるこ

（視能療法学科 小町祐子）

今まで参加されなかった先生方も是非ご参加ください。（事務局 高山敬行）

中国リハビリテーション研究センター (CRRRC) 開設二〇周年記念／第三回北京リハビリテーション・フォーラム

CRRRCは二〇年前にJICAの援助を得て設立されたセンターで、本学と関係が深い組織です。一〇月に開催されたフォーラムの概要を報告いたします。

○期間：一〇月二八日～三〇日
○参加者：①本学より九名 ②日本より二名（本学を除く） ③全体では三〇〇名以上（配布されたリストから推測）

第一日目の午前中に開設二〇周年の記念式典が釣魚台迎賓館で開催されました。センター長の李建軍氏の歓迎の挨拶に続き、中国国内および国外からの挨拶が続き、山谷学長も挨拶をされました。

記念式典の後、数カ所の会場に分かれフォーラム（F）に移行しました。テーマはメインF（招待）と、脊損のリハ、筋骨格系のリハ、神経系のリハ、理学療法、作業療法、言語療法、リハ工学と福祉用具など、全二五テーマのFでした。

本学の杉原素子先生は日本作業療法士協会の代表として話をされ、私はメインFで「Collaboration among Japan, China, and Korea on establishing international standards for assistive products」(優秀論文賞を受賞)を、またリハ工学で「福祉用具規格作成のための有効な方法につ



いて」を発表しました。（大学院福祉援助工学分野教授 田中繁）

同窓会設立総会開催

平成一九年度国際医療福祉大学同窓会「マロニエ会」臨時総会（平成一九年二月一六日（日）開催）において、同窓会運営の変更が承認されました。これにともない平成二〇年九月二〇日（土）、新同窓会の設立総会がF101教室において開催されました。



一期卒業生から一〇期卒業生まで各学科から各卒業年度ごとに一名ずつ計七四名の幹事が選出され、代表幹事に保健学部言語聴覚障害学（現保健医療学部言語聴覚学）一期生 谷合信一さん、副代表幹事に保健学部（現保健医療学部）理学療法学科一期生 上田清史さんおよび医療福祉学部医療福祉学科一期生 二峰正年さんが選出され承認されました。

当日は新幹事七二名が出席し、高木理事長および谷修一学長の挨拶の後、代表幹事より規約の説明がなされました。

閉会後は、場所を那須アスリーナ二階学生ホールに移動し、同期生や教員との再会に終始和やかな雰囲気での懇親会が行われました。

三柴恵美子 講師

とを認識し、是非積極的に入会してほしいものである。

私の主張 第10回 視能訓練士を取り巻く環境

視能訓練士の新卒者就職状況であるが、2008年度新卒者就業状況調査では、開業医への就職が全体の53%を占めている。それに対し、国公立病院への就職は11%程度で、まだまだ少ない現状である。視能訓練士の総数が少なかつた一昔前は、開業医に勤務する視能訓練士はほとんどいなかったことを考えると、この変化は望むべき方向であると言えるだろう。しかしながら、今後の視能訓練士の増加に伴い、国公立病院のポスト増加に向けたさらなる働きかけが必要であろうと思われる。近年、視能訓練士の一般への認知度は、少しずつではあるが向上してきていると思うが、まだまだの感否めない。今後、視能訓練士協会と視能訓練士養成施設とがタイアップし、地道なPR活動を継続すること、充実した既卒者教育、国公立病院の視能訓練士のポスト確保のための活動などが、さらなる視能訓練士の認知度向上と就職先拡大に寄与することができるとは思っていないかと思つている。眼科でなくてはならない存在である視能訓練士の明日をより確実なものにするために、協会理事の一人としてこれからも尽力してゆきたい。



平成二〇年度看護学科 公開学習会開催

看護学科では、毎年学科主催の公開学習会を開催しており、今年も八月三〇日(土)に行いました。この学習会は、看護学科の知的資源を地域の人々に還元するという趣旨で毎年開催しています。



講義中の交流ディスカッション (郷間准教授 右端)

今年度は「キャリアをデザインするー自分の価値を見つけよう」というテーマで、看護師として成長し続けるために、ポートフォリオの活用とどのようにキャリアをデザインしていくかという講義の後、老人看護専門看護師である教員による認知症に関する最新の知見、および地域・在宅看護を専門とする教員による看護の力の発揮が問われる退院調整についての講義が行われました。定員六〇名のところ、希望者が九〇名以上となり、お断りする方もありました。当日は、病院や施設の看護師、看護教員の方々八七名の方が参加され、熱意にあふれた学習会となりました。

新学科の設立を記念する 医療福祉学部フォーラム

医療福祉学部医療経営管理学科と医療

来年も開催しますので、卒業生の方々もぜひご参加ください。
(看護学科 世良喜子)

言語聴覚学科同窓会 十周年記念式典開催

・本学大学院では本学学部卒業(見込)生、大学院修了(見込)生については入学金が免除になります。
入試のお問合せ、資料請求は入試事務室(〇二八七―二四―三二〇)まで。

九月二七日、東京グランドホテルにて、おるり会十周年記念式典が盛大に開催され、来賓として、笹沼先生、伊藤先生、廣田先生、黒住先生にお越しいただいた。

総会ののち、藤田学科長が「この十年、これからの十年」というテーマで記念講演を行った。本学科開設から現在に至るまでの歩みを振り返ると共に、今後の学科の進むべき道や言語聴覚士教育の在り方について示唆に富む講演であった。

続いて、懇親会が開かれ、あちらこちらで思い出話に花が咲き、記念撮影を行う姿がみられた。また懇親会では、笹沼澄子初代学科長より日本の言語聴覚法の草創期から学科開設に至る貴重なお話を聞くことができ、参加者は、毎年一回、卒業研修会を開催し、本年度で十回目となった。毎年欠かさずこ

なると、先生



言語聴覚学科同窓会
おるり会10周年記念式典

福祉学科が来
年四月、医療
福祉・マネジ
メント学科と
して新しく生ま
れ変わる。これ
を記念した医
療福祉学部フ
ォーラム「生
活を支える医
療福祉を考え
る」が七月一



(下野新聞提供)

〇日、栃木福祉プラザで開かれた。
超高齢時代を見据えた新学科の特色を、高橋泰・医療経営管理学科長が、フリーアナウンサー工藤敬子さんと対話形式で紹介。利用者本位のサービスが求められる今、「医療も福祉もわかる」ハイブリッドな人材の養成こそが、時代の要請と、両学科統合の意義を説いた。

前厚生労働省事務次官の辻哲夫・田園調布学園大学教授は「生活医療・生活福祉の時代」と題した基調講演で、退院後の患者の生活とケアには、医療職と介護職の垣根を越えた取り組みが必要と訴えた。鈴木健彦・厚生労働省老人保健課課長補佐は「介護保険制度の課題と平成21年度報酬改定」をテーマに講演した。

設立記念の第二回フォーラムは「求める人材・求められる人材」と題して八月四日に開かれ、本学大学院教授の和田秀樹さんが「18歳の選択」の基調講演。卒業生も交えたパネルディスカッション、医療福祉学科出身の歌手、えりのあさんのライブで盛り上がった。
(医療経営管理学科教授 丸木一成)

ベトナム草の根プロジェクト に参加して

早朝から鳴りやまぬクラクションの音、道路を埋め尽くすカラフルなヘルメット。右左、上を確認しつつ慎重に、そして止まらずに道路を横断する。チョーライ病院への道のりもまた刺激的だった。

一七〇〇床に対し二七〇〇名が入院しており、院内は患者とその家族でこった返していた。二四時間アンビュバックで酸素を送り続ける家族の手が、患者の命を支えていた。懸命に生きる、生活する患者と家族の姿がそこにあった。

我々は言語障害、嚥下(飲み込み)障害の患者の個別指導および、現地の医師、理学療法士(OT、STはいない)を対象に講義を行った。言語リハビリの存在も知らずに諦めかけていた患者と、患者の周囲で苦慮していた家族や理学療法士が周りを取り囲むようにして注目していた。



講義では大きな瞳を輝かせながら耳を傾け、熱心なあまり、質問で講義がなかなか進まない場面もあった。学生だった九年前に参加したベトナム研修では、文化・生活の違いに圧倒されたこと、「言語聴覚士」の説明すらできない自身の専門性・知識の低さに愕然としたことを覚えていた。高い志を持ち、語学と豊かな感性、専門技術を磨き続けることが、世界の人々の生活の質の向上のために、役立つ支援につながるかと実感した。

障害者福祉サービスの 向上に向けて

サービス管理者研修を開催

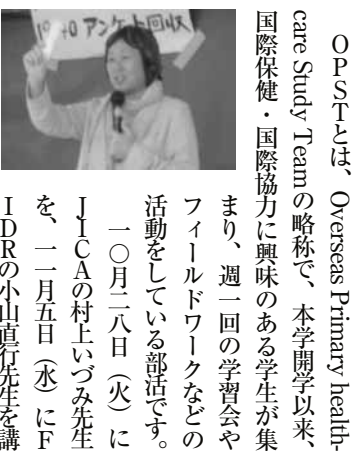
去る八月二六日(火)―二八日(木)、大田原キャンパスで「平成二〇年度栃木県サービス管理責任者研修」が開催された。本研修は、障害者自立支援法の施行を受けて、その円滑な実施とサービス管理責任者の資質向上を目的に各都道府県単位で実施するもので、栃木県では、本学が障害者福祉の向上に貢献するという観点から、県の指定を受けて昨年度から実施している。研修内容の企画や準備は医療福祉学科の山崎順子教授を中心に進め、当日の運営は栃木県障害福祉課と連携しながら県内の障害者福祉施設関係者の協力も得て行われ、県内の障害者福祉施設に勤務する理事長、施設長、相談員等のサービス管理責任者二五〇名の参加があった。

初日は、全受講生を対象に「障害者自立支援法とサービス管理責任者の役割」(県障害福祉課)、「サービス提供のプロセスと管理」(山崎教授)、「サービス提供者と関係機関の連携」(六波羅詩朗教授)の各講義が行われ、あらためて自立支援法を正しく理解するとともに、サービス提供のあり方やそこでの管理者の役割を確認した。

二日と三日目は、「介護、地域生活(身体障害、地域生活(知的障害、就労、児童)の各テーマに分かれた分野別研修が行われ、それぞれの分野ごとに「アセスメント及びモニタリングの実践」の講義や、「サービス提供プロセスの管理の実践」「サービス内容のチェックとマネジメントの実践」を課題とした演習が行われ、事例を題材にし

ナム研修では、文化・生活の違いに圧倒されたこと、「言語聴覚士」の説明すらできない自身の専門性・知識の低さに愕然としたことを覚えていた。高い志を持ち、語学と豊かな感性、専門技術を磨き続けることが、世界の人々の生活の質の向上のために、役立つ支援につながるかと実感した。
(言語聴覚学科助教 佐藤妙子)

OPST部主催講演会 レポート 「人との出会いから、みえる世界。」



OPSTとは、Overseas Primary health-care Study Teamの略称で、本学開学以来、国際保健・国際協力に興味のある学生が集まり、週一回の学習会やフィールドワークなどの活動をしている部活です。
一〇月二八日(火)にJICAの村上いづみ先生を、二月五日(水)にFIDRの小山直行先生を講師にお招きし、大学にて講演会を開催しました。本講演会を主催した趣旨は、地域の方とともに国際保健、国際協力の現状について考えることにあります。村上先生にはフィリピンでのJICA母子保健プロジェクトについて、小山先生にはカンボジア国立小児病院での小児外科、給食支援についての講演をしていただきました。

来場者は本学大田原キャンパスの学生が多くを占めました。大学教員や他大学の学生、一般の方にも聴講していただくことができ、講師、来場者間の貴重な意見交換の場となったと感じております。
(OPST部副部長 講義担当理学療法学科 年 岩松真里)

ながらサービス管理に必要な知識、技術を実践的に体得して、三日間の日程を終えた。
(医療福祉学科教授 小林雅彦)

二〇〇九年度 入学試験のお知らせ

一月一五日に高校推薦・帰国生徒特別選抜入試が実施され、本学の入学試験も本格化して参りました。

今後本学では、二月から三月にかけてAO入試(後期)や一般人試・センター試験利用入試(前期/後期)の他、社会人・留学生特別選抜入試などさまざまな入試を実施いたします。また、大学院でも出願を随時受け付けております(一部専攻・分野を除く)。たくさんの方のご出願をお待ちしております。

二〇〇九年度トピックス

【学部】
・栃木本校医療福祉学部では、現二学科を統合し、新たに医療福祉・マネジメント学科が新設されるほか、福岡県福岡市に新たなキャンパスができ、福岡看護学部看護学科が新設されます。
・一般入試前期の地方試験場に盛岡、沖縄が新設されます。
・一般入試前期では同一学部でのA日程、B日程の併願が可能です。また、センター試験利用入試との併願も可能です。その際には、受験料の割引制度があります。

【大学院】
・二〇〇九年四月より薬科学研究所 医療・生命薬科学専攻が新設されます。大田原と東京で受講が可能です。(生命薬学コースは大田原のみ)

女子バレーボール部

女子バレーボール部は今年度ブレイヤー18名、マネージャー2名の計20名が所属しています。部員は、理学療法・作業療法・言語聴覚・放射線・薬学・医療福祉・経営管理学科と幅広い学科から集まっています。

練習は週3回、那須アスリーナや近隣の体育館を借りて、「常に楽しく!!元氣良く!!」をモットーに3時間程度集中して行っています。大会には昨年度から、春季・秋季関東大学バレーボールリーグ戦、及び関東医療業バレーボール大会の年間で4大会に参加しています。

今年度、春季関東大学バレーボールリーグ戦9部2位で入れ替え戦の結果、8部昇格から勢いに乗って、続く春季関東医療業バレーボール大会において2回目の出場に初優勝という快挙を成し遂げました。次回大会開催時期と倉庫科3年次の臨床実習の時期が重なってしまい、十分な練習ができなため、3年生は春季医療業リーグ戦で引退。最後の大会で有終の美を飾り、1・2年生での新チームに継ぐことができました。

7月から1・2年生の新チームとして活動を始め、新チームとして初めて臨んだ秋季関東大学バレーボールリーグ戦では、8部2位という好成績を残すことができました。他大学のように十分な練習時間・場所が確保できない状況の中でのチーム作りのため、まだまだ課題も多いですが、この勢いで、秋季医療業バレーボールリーグ戦における2連覇を目指して頑張っています。



真剣にバレーをしたい人、楽しくバレーをしたい人、一緒に大学生活を楽しみませんか?是非一度バレー部を覗いてください。お待ちしております。
(女子バレー部一同)

研究最前線

第七回

文の理解は脳でどのように行われるか



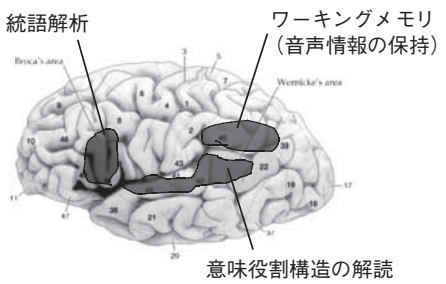
藤田郁代 教授 国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科

ことばは、人間だけに与えられた高次な機能の一つであり、互いに意思や感情を伝達し、社会を構成して生きる私たちの生活を根底から支えています。数ある生物種の中で人間だけがことばを持つに至ったのは、それを支える神経機構が高度に発達したからです。ことばと脳の関係で私が関心を寄せているのは、文を理解し話すことは脳のどのような働きによるかといった問題です。なぜ文なのかとよく聞かれますが、それは人間言語の最大の特徴が有限個の単語を用いて無限数の文をいとも簡単に産出できることにあり、その不思議な能力に強く惹かれるからです。どのようなスーパーコンピューターも適わないような多変数で多次元の処理を一瞬のうちに成し遂げてしまう脳の文処理機構を説明することは、人間言語の本質に迫ることと考えています。

いった問題に取り組んできました。失語症は、脳卒中などで脳の神経機構が損傷されることによって生じることばの障害です。失語症では文を理解できない、産出できないといった症状が現れ、意思の伝達が困難になります。失語症の言語治療では文の訓練は大きな位置を占めています。

文と脳との関係について、私は2つの方向から研究を進めています。ひとつは、失語症患者の言語反応を分析し、文を理解するメカニズムを解明することです。もうひとつは、失語症患者の脳の病変部位を検討し、文の処理に関係する神経機構を明らかにすることです。

文を理解するメカニズムについては、いくつかの興味深いことがわかってきましたので、そのひとつを紹介しましょう。皆さんは文を理解する際に文法知識をどの程度利用していると思いますか。日本語では「が」のような助詞が文の組み立てや、単語の意味関係を示します。たとえば、「太郎が花子を呼んだ」という文を理解するには、「が」、「を」の助詞から「太郎」は主語で動



文の理解に関する脳領域

作をする人、「花子を」は目的語で動作の対象であることを解読することが必要です。私たちは常にこのような文法知識を利用して文を理解しているのでしょうか。実はそうではなく、脳はさまざまな知識を利用して高速で文を処理しているのです。これは、失語症患者の文の理解に関する研究から明らかになってきました。次の3つの文は同じ長さですが、理解のしやすさに大きな差があります。

- 1) 男の子が ボールを 追いかけた。
- 2) 男の子が お母さんを 追いかけた。
- 3) お母さんが 男の子が 追いかけた。

失語症患者では、1)の文は最も理解しやすく、2)、3)の順に理解が難しくなります。失語症患者は助詞の理解が障害された場合、単語の意味や世界認識の方略を用いて文を理解します。世界認識の方略とは、自己中心的に世界を認識する方略で5歳頃までには獲得される認知方式です。この認知方略は文の理解では文頭の単語を「動作をする人」として解釈するといった現象として現れます。

- 1)の文は単語の意味を手がかりに文が理解できるため最も易しく、2)の文は認知方略に基づいて意味が理解できます。しかし、3)の文は助詞の理解なしには意味を把握することができないため、最も理解が難しくなるのです。

えてきます。脳の情報処理は直線的に進むのではなく、複数の情報が同時に活性化し、並列的に処理されると考えられます。これは短時間で多くの情報を処理する最も効率的な方法といえるでしょう。このような脳の仕組みは脳卒中などで失語症になったときに素晴らしい力を発揮します。それは文法知識が障害されても、単語の意味や認知能力が保たれていれば、それを用いてある程度、文が理解できるのです。このように、脳は非常に柔軟に働くようになっており、たとえ損傷されても障害を補うことができるような仕組みをもっています。

文を理解する能力が脳のどの部位の働きによるかについては、いくつかの領域が重要な働きをすることがわかってきました。それは図に示した前頭葉、側頭葉、頭頂葉の領域です。前頭葉はローカ領域と呼ばれる部位で、ここは文法的組み立ての解析(統語解析)が行われると考えられています。また、側頭葉にあるウエルニッケ領域では単語の意味関係(意味役割構造)の処理が行われ、頭頂葉下部は音声情報の一時的な保持を担うと現在のところ考えられています。このような部位は、失語症患者の病変部位の検討だけでなく、fMRIやPETを用いた脳画像研究からも上がってきたものです。このように、文の理解は脳の複数領域のニューラルネットワークによると考えられますが、まだその全貌は明らかになっていません。

人間だけに与えられたことばを操作する能力を脳がどのように支えているかを解明するには、今後も多方面からの研究が必要ですが、地道な研究の積み重ねによって想像を超えた脳の素晴らしい力が明らかになっていくものと思います。

Mary Evert 元米国作業療法士協会会長の特別講義



平成二〇年七月七日(月)七時限目の作業活動支援学講義の時間帯に、所用で来日していたMary Evert 元米国作業療法士協会会長「LAOTA (American Occupational Therapy Association) Today」のタイトルで特別講義をお願いした。東京サテライトからの発信で大田原、福岡の学生・教員合わせて一五名が参加した。通訳を総合教育センターの南井教授にお願いし、JICA医療専門職顧問の富岡弘教大教授も同席し、米国内における作業療法士の現状と将来展望について話を聴くことができ、気になる米国の作業療法士の課題を知ることができた。米国では、作業療法士の教育課程が二〇〇七年から修士レベルになり、養成校は一五二校あり、米国内には一四七校の作業療法助手の養成課程があり、このOTAとOTRそれぞれに高齢者及び低所得層の人たちに対する需要が増え続けている状況がある。作業療法士の配置はもっとも多いのがSchool based 31%、次にSkilled Nursing 13%、Hospital 11%のようである。

平成二〇年七月七日(月)七時限目の作業活動支援学講義の時間帯に、所用で来日していたMary Evert 元米国作業療法士協会会長「LAOTA (American Occupational Therapy Association) Today」のタイトルで特別講義をお願いした。東京サテライトからの発信で大田原、福岡の学生・教員合わせて一五名が参加した。通訳を総合教育センターの南井教授にお願いし、JICA医療専門職顧問の富岡弘教大教授も同席し、米国内における作業療法士の現状と将来展望について話を聴くことができ、気になる米国の作業療法士の課題を知ることができた。米国では、作業療法士の教育課程が二〇〇七年から修士レベルになり、養成校は一五二校あり、米国内には一四七校の作業療法助手の養成課程があり、このOTAとOTRそれぞれに高齢者及び低所得層の人たちに対する需要が増え続けている状況がある。作業療法士の配置はもっとも多いのがSchool based 31%、次にSkilled Nursing 13%、Hospital 11%のようである。

作業療法学分野教授 杉原素子

大学院福岡S.C.「自立支援介護を学ぶ研修会」開催

大学院福岡サテライトキャンパスでは、八月二日・三日、竹内孝仁大学院教授による「自立支援介護を学ぶ研修会」を、福岡国際医療福祉学院・もち国際ホールにて開催しました。介護関連施設で働く方々を中心に、九州各県はもとより、富山県など遠方から二五〇名を超える多数のご参加をいただきました。

一日目は「身体的な自立、理論と実践」二日目は「認知症のケア、認知症を治す理論と実践」と題して講演が行われたほか、福岡・広島・東京の老健・特養三施設から介護現場におけるそれぞれの取り組み状況が発表され、在宅復帰について事例討論が活発に行なわれました。

参加者からは、「日常業務に還元できる内容で、認知症の在宅復帰について参考になった」、「介護職の専門性を高めることが急務であると感じた」、「自立支援や専門領域等、今後も学ぶ機会が欲しい」という感想が聞かれました。

講演会に引き続き、四月より新たに開設された熊本S.C.の紹介も含めた、大学院の個別相談会も開催。相談会では、竹内教授や同席した先進的ケア・ネットワーク開設研究分野の大学院生



に対して、大学院での研究の進め方や単位取得の方法など多くの質問が寄せられました。(大学院福岡S.C. 事務部 原田紀子)

福岡リハビリテーション学部、「臨床教育に関するフォーラム」を開催

理学療法士など、医療職を目指す学生の臨床実習を受け入れる病院や福祉施設の実習指導者を対象にした「臨床教育に関するフォーラム」が七月二日に福岡国際医療福祉学院・もち国際ホールにて行なわれました(写真)。一六〇名を超える方が参加、演者への質問が相次ぐなど、活発な議論が交わされました。



本フォーラムは、福岡リハビリテーション学部が主催、関連校の専門学校柳川リハビリテーション学院、福岡国際医療福祉学院で各校のFD活動の一環として企画されました。

医療職を目指す学生の実習受け入れ側である病院や福祉施設の指導者の方に、よりよい臨床教育を目指すための情報を発信することが開催の狙いでした。

日本医学教育学会会長で、本学客員教授である齋藤宣彦先生、同保健医療学部長・理学療法学科長の丸山仁司先生そして、作業療法学科長の萩原喜茂先生等に講師としてご参加いただきました。

齋藤先生は、医師を養成する立場から、その教育現場で進むメンタル面での支援制度といった取り組みについて発表されました。様々な医療職の教育現場の現状を知ることでお互いの理解を深めるきっかけとなったようです。(九州・広報 原田ちはる)

私のおすすめ

脳は美をいかに感じるか

ピカソやモネが見た世界

セミール・ゼキ著 (河内十郎監訳) 日本経済新聞社 3500円

「目ではなく、脳がものを見る」このキャッチコピーに興味を覚えた、私は本を手にとった。カバー表紙には2つの作品、デュシャンの「自転車の車輪」とフェルメール「真珠を量る女」の作品が掲載されており、美術書籍の印象を呈していた。

著者はロンドン大学生物神経学の教授で、視覚脳の開拓者であるが、美術にも造詣が深い。彼はこの本を美術ではなく、脳の本だと述べており、また、脳の働き、中でも視覚脳の働きを知ることによって、生物学を基礎とする新しい美学・美術論のアウトラインを展開できると述べている。詳しく読み進めると「視覚とは何か」について

小田原保健医療学部 看護学科 学科長 島内 節 在宅地域ケア研究センター長

て改めて考えさせられる。みなさんは「なぜ、赤色を赤色と認識できるのか?」「なぜ、日なたから見るか」を考えたことはあるだろうか。 眼という感覚器官がもつ感覚受容器(網膜)の視覚閾値が400~700nmであり、この範囲の情報しか脳が受取れないこと、視覚野を構成する個々の細胞には、例えば赤色のみに選択的な細胞、運動方向選択性細胞などがおり、特定の刺激や視覚信号を選択して受取った情報を統合することで、これら細胞の選択性は、光の量や角度などが違う環境下でも「緑色」という恒常的・本質的特性を得るために必要であることなど、私は、この書籍とおして多くの事を学ぶ機会となった。 また、視覚脳の観点から多くの美術作品が図写真で紹介されており、文字通り「見て」も興味深い書籍となっている。



「風花祭」、「潮風祭」ともに多くの方々に来場頂きました。



「風花祭」、「潮風祭」ともに多くの方々に来場頂きました。

位置に固定されました。ピアノコンサートは、平成一四年の年末、近隣在住の有名なピアノ奏者がこのピアノに



(山王病院事務部 演奏会担当者)

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

〔大学祭参加レポート〕

一〇月一八日、一九日に開催された大田原校「風花祭」と小田原校「潮風祭」に参加致しました。



風花祭は他の関連病院と共に今年初めて参加し、熱海病院はBLS(二次救急救命措置)の実演、指導を行いました。

潮風祭は昨年に引き続き熱海病院として参加致しました。今年は保健指導、血糖チェック、血液サラサラ測定を行いました。

二時間近くお待ちいただく程、多くの方が測定を希望されました。

位置に固定されました。ピアノコンサートは、平成一四年の年末、近隣在住の有名なピアノ奏者がこのピアノに



(山王病院事務部 演奏会担当者)

施設インフォメーション

News: Affiliated Facilities

附属病院

国際医療福祉大学病院

〔実習生の皆様へのメッセージ〕

学生の皆様こんにちは。今回は放射線室からのメッセージです。我々診療放射線技師は院内で最も高額な医療機器を扱い管理し、業務に従事しております。



放射線・情報科学科の実習は、三年生が九月末から一週間という長きにわたり実施しております。

「かごに乗る人、担ぐ人、そのまたわらじを作る人」のことわざのごとく他職種間で互いに相補する連携の必要性を強く感じています。



講演する北島政樹病院長

「病院紹介ビデオ」で病院の紹介がなされ、高木邦格理事長、四月より新たに山王病院院長に就任した堤治院長の挨拶で開会となりました。

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

第六回三田がんフォーラム及び三田病院・山王病院合同医療連携懇談会開催

七月一四日、ホテルニューオータニにおいて、六回目となる「三田がんフォーラム」と、恒例の「三田病院・山王病院合同医療連携懇談会」が開催されました。

今回の「三田がんフォーラム」は、谷修一学長の挨拶で始まり、医療連携室長である真船健一副院長の司会のもと、三田病院が四月より東京都認定がん診療病院に認定されたことを受け、東京都福祉保健局医療政策部長の吉井栄一郎様に「東京都がん対策推進計画について」ご講演いただきました。

「病院紹介ビデオ」で病院の紹介がなされ、高木邦格理事長、四月より新たに山王病院院長に就任した堤治院長の挨拶で開会となりました。

臨床医学研究センター(東京地区)

山王病院

山王病院 ピアノ物語

山王病院の一階に足を踏み入れていただくと、まず皆様の目に留まるのがロビー中央に位置するピアノです。

このピアノ、実は世界でも数少ない「ペーゼンドルフアー・インペリアル」というグラゼンドルフアーで、鍵盤の数も一般のピアノより多く、低音域に黒色の鍵盤が位置します。

平成一二年一二月の新年山王病院オープンの半年後に、当院をこよなく愛していただいている方からの寄贈でこのピアノは皆様の前に現れました。

魅了され、ボランティアで演奏したことから始まりました。月一回の夕べのコンサートと、時に昼のコンサートを開催し、早六年が経過しました。

福岡看護学部 看護学科が誕生します！ 「天神」という最高のステージで未来の夢がひろがる。



2009年4月、アジアの文化・学術の中心都市であり、九州の中核都市である福岡市の中心地、天神エリアに国際医療福祉大学の新しいキャンパスが誕生します。

看護学科を置く4年制大学は天神初。

さまざまな人やモノ、情報が行き交うエネルギッシュなこの街で、あなたの夢を叶えませんか。

■ 特色

急速に進む少子高齢化や、高度化・複雑化する医療の現場では、さまざまなニーズに的確に対応できる、応用力のある看護師と保健師が求められます。本学部では、チーム医療の一員として活躍できる高度な知識と技術を身につけることはもちろん、豊かな人間性と広い視野を持つ人材を育成します。4年間を通して、生命尊厳への畏敬の心を持ち、人間愛を深め、調和のとれた社会人を育成します。

■ 人間存在の探求

統合体としての人間を理解する。

看護・看護学は人間を対象とする実践であり学問です。人間理解はそのスタートであり、人間理解を深めていくことは永遠のテーマでもあります。

■ 看護理論と実践の統合

学際的看護を探究する。

医療に対する要求が多様化する時代だからこそ、高度で専門的な看護知識が求められます。看護理論を身につけることで、複雑な臨床場面でも何が重要かを見極めることができるようになります。

■ 在宅ケアシステムの構築

社会の変化に柔軟に対応する。

急速に進む高齢化とともに保健医療を取り巻く環境も変化してい

くため、柔軟な対応が求められます。また、天神地区における都市型災害の拠点として機能できるように、災害時のシステム構築など教育機関としての発展もめざします。

■ 多文化交流の推進

国際社会に貢献する。

看護をはじめとする医療分野の教育研究には、国際化が重要な課題です。日本国内にとどまらず、世界で活躍する看護専門職者の育成が求められています。福岡看護学部では、日本やアジアの医療に深い興味を持ち、国際化に対応できる人材を育成します。



■ メッセージ

奥深い魅力を持つ看護、自立した専門職、生きがいのある看護の仕事を選んでみませんか。

現代の私たちの社会は、より人間らしい生き方ができる社会環境、つまり、人が豊かに生きる社会の再構築が強く求められています。加えて、高齢化社会の本格化とともに、保健・医療・福祉のあり方が根本的に問われるようになりました。そこで、専門知識と豊かな社会性を持つ看護師・保健師が他の専門職と協力し責務を果たすことが必要になります。

福岡看護学部は、これからの社会が求める人材、国際性に富む教養を持ち、地域社会や世界で活躍できる専門家を育成するために開設されます。大学時代の4年間は、人の一生にとってきわめて大切な時期です。この時期にどれだけ出会いがあり、一人ひとりに役立つ教育を受けることができるか、それは皆さんの大学選びにかかっています。福岡看護学部は、高等教育機関として、人間への深い理解と確かな倫理観を基に、保健・医療・福祉の統合的視野を踏まえたカリキュラムを用意しています。「学ぶ喜び」を分かち合えるように、教職員一同あなたの可能性を応援します。



小田正枝
福岡看護学部長 (就任予定)
西南学院大学保健福祉学部教授を経て、来春から福岡看護学部長に就任予定。日本看護診断学会副理事長、九州看護理論研究会会長。

■ Power of Tenjin Area

■ Access

西鉄福岡(天神) 駅からも徒歩約8分の好立地

福岡の中心地・天神は、バス、地下鉄、西鉄電車など交通アクセスに優れています。本学部は天神北エリアに位置し、静かな環境でありながら、西鉄福岡(天神) 駅から徒歩約8分。遠方からもさまざまな公共交通機関を利用して通学することも可能です。



■ Trend

グルメ、ファッション。福岡のトレンド発信地

百貨店やファッションビル、オフィスビルが立ち並ぶ天神は、グルメ、ファッションなど、あらゆる流行と文化の発信地。ラーメン、

もつ鍋、明太子など、おいしい食べ物のお店は数知れず。また、たくさんセレクトショップはおしゃれに敏感な人たちにぎわっています。

■ Culture

美術館で芸術鑑賞したり、オープンカフェで楽しく過ごす

おしゃれなショップや観光スポットが満載だからこそ、放課後の過ごし方もさまざま。須崎公園に隣接する福岡県立美術館で芸術にふれて感性を磨いたり、西通りや大名の个性的な店でショッピングしたり、カフェでおしゃべりしてリフレッシュできます。



「がん化学療法」を学ぶ
病院長 税所宏光
がん医療の重みが増大するともに、最近その医療内容は新しい治療法を加えつつ、日進月歩しています。中でも、化学療法は、分子標的薬など新しい薬剤の開発も盛んであり、治療成績も年毎に向上がみられます。当院では集学的治療の他に、化学療法を柱としてがん治療に取り組んでおり、診断から治療まで包括的な診療をめざして取り組んでいます。



「夢は作業療法士！」
母親の薦めで作業療法士になる夢を持った市川市内中学二年の女子学生が、化研病院で二度にわたる職場体験をしました。リハビリテーション室の作業療法士のかたわらでコミュニケーションが取れる方やあまり反応のない方などいろいろな作業療法に接する中で、ますます夢を実現させる決意を固めた様子。「自由に体を動かせるようサポートする仕事は素晴らしい。一緒に頑張ろう」と抱負を語っていました。国

「夢は作業療法士！」
母の薦めで作業療法士になる夢を持った市川市内中学二年の女子学生が、化研病院で二度にわたる職場体験をしました。リハビリテーション室の作業療法士のかたわらでコミュニケーションが取れる方やあまり反応のない方などいろいろな作業療法に接する中で、ますます夢を実現させる決意を固めた様子。「自由に体を動かせるようサポートする仕事は素晴らしい。一緒に頑張ろう」と抱負を語っていました。国

臨床医学研究センター(東京地区) 化学療法研究所附属病院

ルの向上を図るため、職員向けセミナーを開催し、時宜に応じて学ぶ機会を設けております。

第一回は九月二四日、千葉県がんセンター外来化学療法科部長の辻村秀樹医師による「外来がん化学療法システム構築の要点と課題」、第二回は一月二八日、杏林大学腫瘍内科教授の古瀬純司医師(当院非常勤)による「がん化学療法の実践」を開催しました。今後は消化器・呼吸器など各論を具体的に掘り下げ病院全体でチーム医療に取り組む姿勢を強化していきます。



心臓血管外科部長 国際医療福祉大学教授 小坂眞一先生が出版されました。
心臓病の9割は防げる
心臓病の種類と手術
血圧は低ければ低いほどいい
脂質異常症の新しい定義
HbA1C値は6.5%以下に
タバコ一日一箱で4.2倍の危険
日本人はアルコールに弱い民族
一週間五万歩ウォーキング
腹六分目の二食半で十分
腎臓、歯、脱水、睡眠の盲点
心臓と腎臓は双子の臓器

国際医療福祉大学紹介DVDなどを手にしながら、希望に満ちた表情で作業療法士と別れた姿が印象的でした。
化研病院には病棟看護師を始め、リハビリテーション室、放射線室、通所リハビリテーションセンターなど各部署で、国際医療福祉大学で学び夢を実現させた先輩たちが多数活躍しており、病院には欠かせない存在になっています。(総務企画課)

「新しい病院作りは大変かもしれないが、その先には三つのK、感動、感謝、感謝の三つがあります」と挨拶しました。説明会後は、福岡タワー展望室へ移動、病棟の建設現場を、間近で見ることができました(写真)。グループの専門学生はもちろん、九州各地そして関東地区からの参加者もおり、ももちの新病院への関心の高さが伺われました。



「夢は作業療法士！」
母の薦めで作業療法士になる夢を持った市川市内中学二年の女子学生が、化研病院で二度にわたる職場体験をしました。リハビリテーション室の作業療法士のかたわらでコミュニケーションが取れる方やあまり反応のない方などいろいろな作業療法に接する中で、ますます夢を実現させる決意を固めた様子。「自由に体を動かせるようサポートする仕事は素晴らしい。一緒に頑張ろう」と抱負を語っていました。国

シーサイドももち 看護師就職説明会実施、シーサイドももちの新病院を見学！

国際医療福祉大学・高邦会グループは、八月二〇日グループ病院への就職を希望する看護師のための「看護師就職説明会」をシーサイドももち(福岡市)にて行いました。グループの専門学校である、福岡国際医療福祉学院(福岡市早良区百道浜)のももち国際ホールで



「医療福祉チャンネル774」おすすめの番組

医療福祉チャンネル774では、スカパー!の774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

国際医療福祉大学アワー

特集! 大学祭

栃木本校で開催された「風花祭」を特集します。今年のテーマは『笑顔のもとに～no more cry～』。人を相手とする保健医療福祉の現場では、「笑顔」が一番大切なことです。イベントや学内展示、模擬店やステージなど大賑わいのプログラムを、新レポーターの定本有加さんが紹介します。



元気はつらつ定の定本有加さんがご案内します。

この番組はインターネットでもご覧いただけます。
<http://www.iuhw.ac.jp/movie.html>

専門医にきく

肺がん治療の最新情報とこれから

医療機器の開発や治療技術の進歩とともに選択肢が増えてきた肺がんの治療について、各専門領域の最新の情報をお届けします。それぞれの治療法の評価と可能性を専門医に聞きながら、ベストな治療の選択を考えます。



(左から) 土屋了介氏 (国立がんセンター中央病院 病院長)
馬場雅行氏 (放射線医学総合研究所重粒子医学センター病院 治療課長)
奥仲弥弥氏 (山王病院 副院長)

◆スカパー! ◆インターネット

774視聴者特典として、受験講座を医療福祉チャンネル (<http://www.ch774.com/>) で無料配信中! フリーダイヤル・Eメール (下記参照) で、お客さま係までご連絡ください。ユーザーID・パスワードをお知らせします。

社会福祉士受験講座

試験日: 2009年1月25日 (日)

身体的・精神的に障害のある人や高齢者などの福祉に関する相談を受け、指導や助言、援助を行う社会福祉士は、厚生労働大臣認定の国家資格のひとつです。また、社会福祉士は社会的に注目を集める資格として、今後の社会に大きな役割を期待されています。



鈴木五郎氏 (本学医療福祉学部 教授)

※2010年から試験科目大幅増! 13科目→19科目

介護福祉士受験講座

筆記試験日: 2009年1月25日 (日)

実技試験日: 2009年3月1日 (日)

介護保険制度改革、障害者自立支援法施行、高齢者医療制度改革、権利擁護制度見直しなど、様々な社会潮流の変化が、出題に反映されます。過去20回の出題傾向を徹底的に分析、効果的な学習が可能。また、実技試験の過去問題が全て見られます。



実技試験の模範演技と詳しい解説

●医療福祉チャンネル774を見るには

- 「医療福祉チャンネル774」はスカパー!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカパー!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!
- 視聴料...月額2,100円 (このほかに、スカパー!加入料...2,940円(初回のみ)・スカパー!月額基本料...410円がかかります)
- 法人契約...5,250円
- IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせください。

●視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774 (株)医療福祉総合研究所 お客さま係 Eメール info@iryoufukushi.com HP www.iryoufukushi.com/
〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山1丁目タワー 4階

広報誌 IUHW 75号

発行: 学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原本校〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔天神キャンパス〕
福岡県福岡市中央区長浜1-3-1 ☎092-739-4321

〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000

〔東京事務所〕広報室
東京都港区南青山1-24-1 ☎03-5775-2505

デザイン: iDept. 写真: 大田原キャンパス 写真部ほか
編集: 東京事務所 広報室

©国際医療福祉大学 2008 Printed in Japan 禁無断転載・複写

お知らせ

IUHW Hot News

新宿区長けやき園来訪

敬老の日を控えた去る九月九日、特養入所者が103歳を迎えるMTさんの長寿を祝って、中山弘子新宿区長 (写真左) が、けやき園を訪れました。MTさんは毎年区長の訪問を受けており、姪御さんと共に懐かしそうに団欒され、また、しっかりとした口調で、施設の食事やサービス内容等について区長に報告されました。予期せぬことでしたので、近くに居た職員は冷や汗ものでした。

その後、区長は同ユニットの方々と記念写真に収まり和やかな交流の後、つぎの訪問先に向われました。けやき園の入所者平均年齢は86.5歳ですが、長老MTさんの要望をしっかり受け止め、皆さんに喜んで頂ける施設創りに、職員一同決意を新たにしました。

